



「ゲバントハウス」と  
「ゲバントハウス交響楽団」

ゲバントハウスの所在地、ドイツ民主共和国のライプチヒ市は、10世紀ごろから商業交易都市として発達してきました。そのため商業ブルジョア階級の貴族や宮廷の圧迫が比較的弱かつたので、早くから市民文化が発展しました。市民の間にも例外ではなく演奏会や町会音楽会がさかんで、市民の音楽生活は盛んになりました。1743年、このような市民の楽団のなかから本格的なオーケストラが組織され、戦争で一時的に中断しましたが1763年に再組織されました。これがゲバントハウス交響楽団の前身です。1860年、ライプチヒの市議会では衣服協会が宝物陳列所であったゲバントハウスを放棄して音楽会館を作ることを議決し、1861年、今日ヨーロッパで最も情緒ある高名な演奏会場ゲバントハウスが誕生し、同時に先述のオーケストラがゲバントハウス交響楽団として発足しました。

この交響楽団は1853年に著名なメンデルスゾーンを指揮者に迎えてから、飛躍的な進歩をとげ、世界的に名を知られるようになりました。その後リスト、ベルリオーズ、ワグナー、リヒャルト・ワーグナー、サン＝サーンスなどの大作曲家がぞくぞくと招かれて自作の指揮をとりました。1885年ゲバントハウスは全面的に改築され、古典と近代の様式を結合したホールが作られ、ライプチヒの音楽生活の中心として、高い芸術的伝統を誇っています。

20世紀に入ってもヘルムルトヴェングラー、ワルターなどの大指揮者を迎えて名をきわめました。ナチス独裁体制、世界大戦によつてゲバントハウスは完全に破壊されてしまいました。

戦後フランス・コンヴァイチュニーを指揮者に迎えて、ナチスによって破壊された伝統を復興し、さらには新しい音楽の確立をめざして活躍し、いち早く立ち直つて全欧的的名声を確立するに至っています。

ゲバントハウス交響楽団は1961年11月21日、コンヴァイチュニー指揮のベートーヴェン交響曲連続演奏会で大成功を収めました。

ゲバントハウスは過去の偉大な遺産を受けついでいますが、伝統が当時時代進歩的の理想を基礎に発展をせらねています。どうして古き時代から受けつがれた新しい伝統が継承されたいかなるべきか。

現在団員180名、定期演奏会は12回、そのほか慈善音楽会、多数の演奏を行つていきます。

ゲバントハウス弦楽四重奏  
団メンバー

ゲルハルト・ボッセ  
(第一バイオリン)

ライプチヒ音楽アカデミーでヴァイオリンと第二バイオリンを学んだ。1966年24歳のワイマール音楽アカデミーの講師となり、数年後教授に任ぜられた。さらにライプチヒ音楽アカデミーの会員となった。彼はソリストとしても室内楽演奏家としても、すばらしい名声を得ており、ゲバントハウスの経営部は彼にゲバントハウス交響楽団の第一バイオリニストとゲバントハウス四重奏団のマネージャーを任命した。

ギュンター・グラス  
(第二バイオリン)

1938年、バイオリン奏者のむすことして生まれる。ライプチヒ音楽高等学校でルート・ボーシェ女史の教えを受け、その後一年間、レニングラードでシエアー教授に師事した。1961年からゲバントハウスで副コンサート・マスターをつとめている。

デイトマル・ハルマン  
(ヴィオラ)

ブレスラウ生まれ。ライプチヒ音楽アカデミーに学んだ。バイオリンとヴィオラの両方をマスターした。ゲバントハウス交響楽団の一員として、1958年バイオリンの独奏者となり同時にゲバントハウス四重奏団の一員となった。音楽アカデミーの教鞭をとるかたわら、音楽会コンサートとして室内楽演奏家として活躍している。

フリードマン・エルベン  
(チェロ)

ライプチヒ音楽アカデミーでギュンター教授のもとに学んだ。ベルリンの国立オペラ座とベルリン・シンフォニー・オーケストラを経て1955年ゲバントハウス交響楽団に招かれた。1957年から第一チェロとなった。ゲバントハウス交響楽団の一員として音楽アカデミーのソロ・チェロの監督として、ドイツのコンクールに参加し入賞している。ソリスト、室内楽演奏家として名声を得ている。

ゲバント

弦楽四

とき...1964年11月21日